

## 平和祈念事業アドバイザーボード（第10回）議事要旨

1 日 時：平成25年2月21日（木）14：00～16：00

2 場 所：新宿住友ビル47階 スカイルームNo. 8

3 出席者：（委員）

◎ 亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）

○ 杉浦 力（財団法人能率増進研究開発センター理事長）

黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部国際社会学科国際関係専攻教授）

田久保忠衛（杏林大学名誉教授）

堀川 末子（弁護士）

水嶋 英治（常磐大学大学院教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

田家 修 官房審議官

加瀬 徳幸 特別基金事業推進室長

阿南 哲也 特別基金事業推進室企画官

4 議事次第

（1）資料館視察

改修状況、企画展「満蒙開拓青少年義勇軍の軌跡—満州に渡った少年たち—」

（2）「平成25年度平和祈念事業の実施について（案）」の説明

（3）「平成25年度平和祈念事業計画（案）」の説明

5 議事要旨

（1）資料館を視察し、改修状況、企画展及び運営状況等について説明が行われた。

（2）「平成25年度平和祈念事業の実施について（案）」の説明

資料に基づき、事務局から「平成25年度平和祈念事業の実施について（案）」について説明が行われた。

（3）「平成25年度平和祈念事業計画（案）」の説明

24年度事業者から「平成25年度平和祈念事業計画（案）」について説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 展示改修について、レイアウトが非常にすっきりしたことで、常設展示の資料が充実している印象を改めて受けた。一方、企画展示については、ややスペースにゆとりがあり、資料のボリュームが少ないように感じた。従来注目されていなかった資料やエピソードなどがあれば、マスコミにも取り上げてもらうことができ、来館へのきっかけになるのではないだろうか。
- 収蔵庫にある所蔵資料と、常設展示の資料を入れ替えることはできないのか。展示の基本構成は変わらないにしても、特別の展示を設けるなど、工夫していかなければ、1度訪れた来館者がリピーターとなることはないのではないか。
- 資料館内外において、様々な試みを行っていることは素晴らしいが、今年度の見込み来館者数が昨年度よりも少ないことは非常に残念である。
- 資料館内のイベントにおいて、プロの声優が朗読を行い、来館者の涙を誘っていたとあったが、来館者の人数では計れないものがあるように感じた。プロの方たちを価値のあるものとして大切にし、今後お願いすることは効果があるように思う。
- 来館者数を増やすことだけを考えて、広報の内容や方法が枠組みを超えてしまうようになったら、資料館設置の趣旨を没却することになってしまうので留意してほしい。
- 中高生は博物館などに最も来館しない世代であるので、他の博物館は教員をターゲットにコンテンツを作ったりしている。積極的にインターネットを活用してもらうことはもちろん、教員から高校生への働きかけについてもさらに力を入れてもらいたい。

〔 本議事要旨は、総務省大臣官房総務課特別基金事業推進室において作成した速報版であり、今後、修正する場合がある。 〕